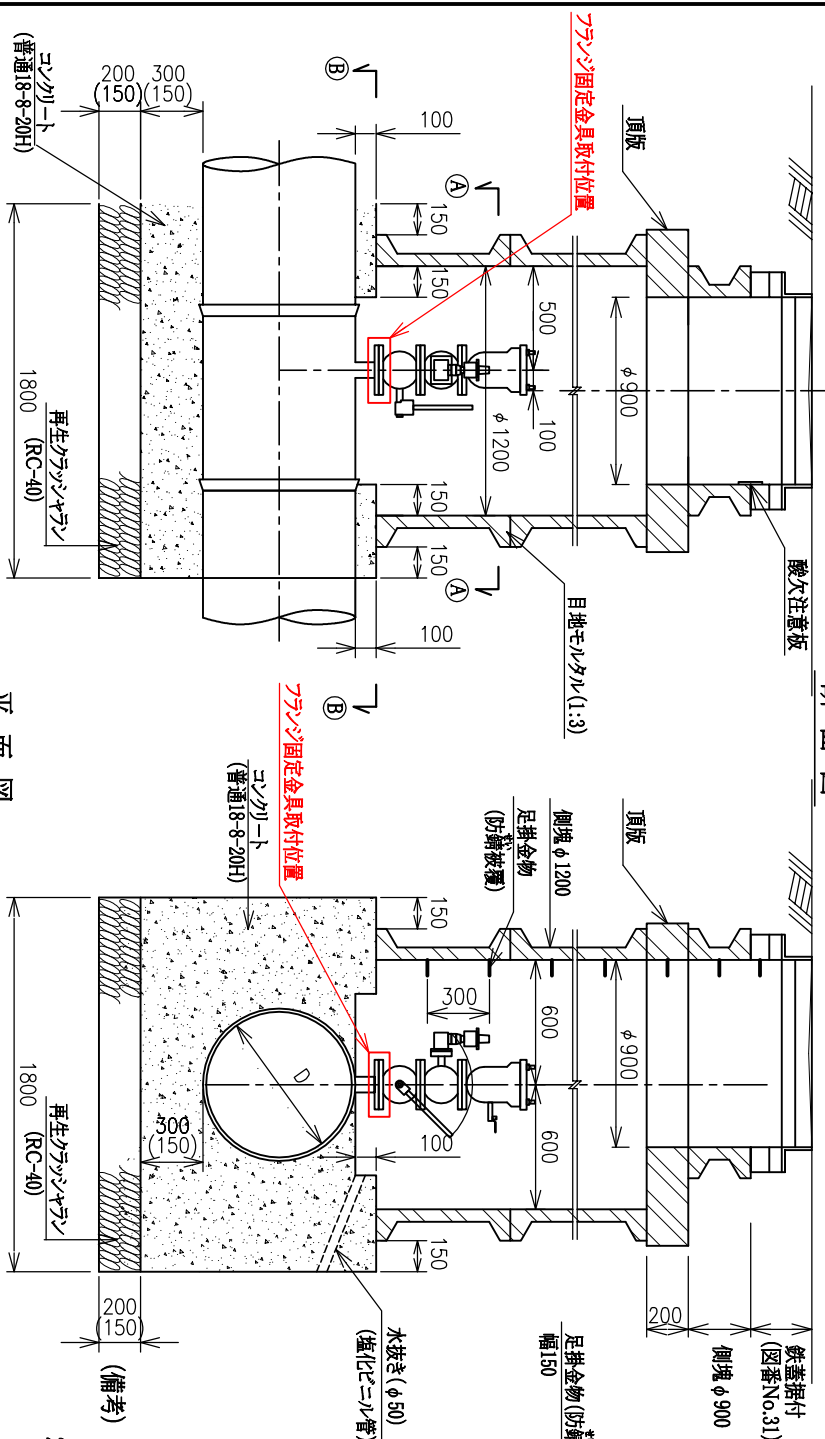


# 配水管工事標準図 改定の要旨

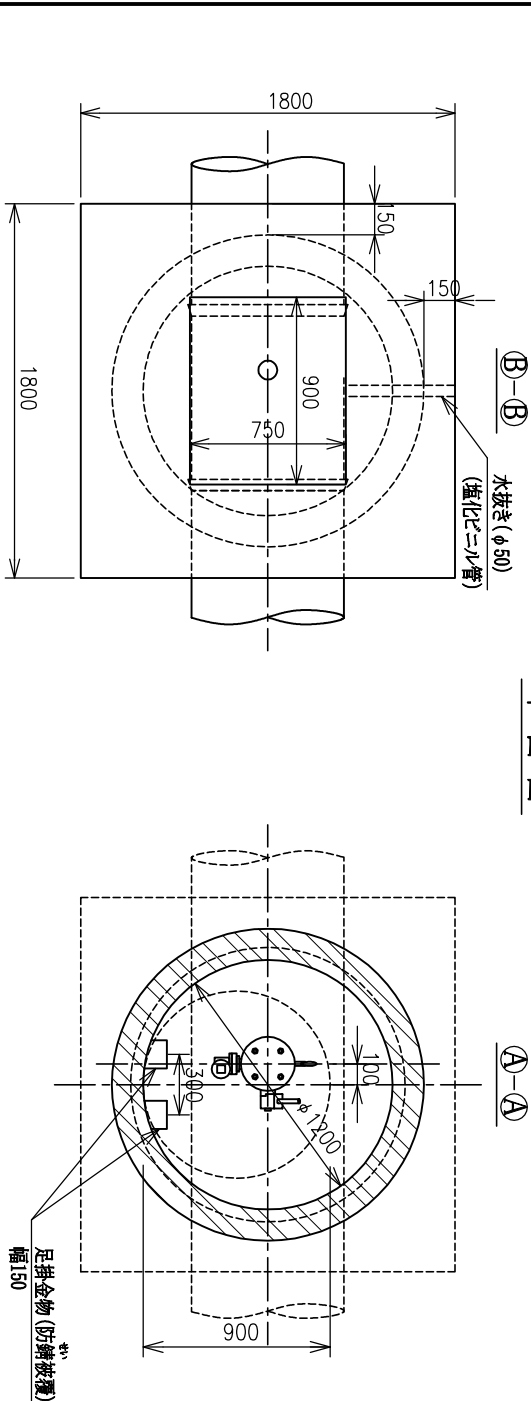
ページ	改定項目	主な改定内容
No.11	区画量水器設置工（呼び径 350）	○ 特殊乙字管が製造されていないことから、参考図 No.36（新規）に移動した。
No.22	玉押器対応型急速空気弁室築造工（口径 75・100mm）	○ φ400mm 未満も配水本管となる場合があることから、適用に「配水本管」を追記した。また、フランジ固定金具取付箇所を明記した。
No.23	玉押器対応型急速空気弁室築造工（口径 150・200mm）	○ フランジ固定金具取付箇所を明記した。
No.38-2（新規）	管明示工（誤接続対策用）	○ φ400mm 未満の配水本管について、誤接続用の管明示テープ及び明示シートを新規に追加した。
No.40（新規）	玉押器対応型急速空気弁室築造工斜壁構造タイプ（口径 75mm）その 1	○ φ250～600 までの配水本管に対応する斜壁構造タイプの空気弁室について新規に追加した。
No.40-2（新規）	玉押器対応型急速空気弁室築造工斜壁構造タイプ（口径 75mm）その 2	○ 同上
参考 No.3	土留工	○ 木矢板に関する記述を削除するとともに、床付け深さによる土留設置について、記述を見直した。
参考 No.4	覆工	○ 木矢板の記述を削除した。
参考 No.36（新規）	区画量水器設置工（呼び径 350）	○ No.11 から移動した。
	<b>【備考】</b>	
No.11	欠番	

**※次頁以降の改定原稿の赤書きが、今回の改定箇所となります。**

断面図

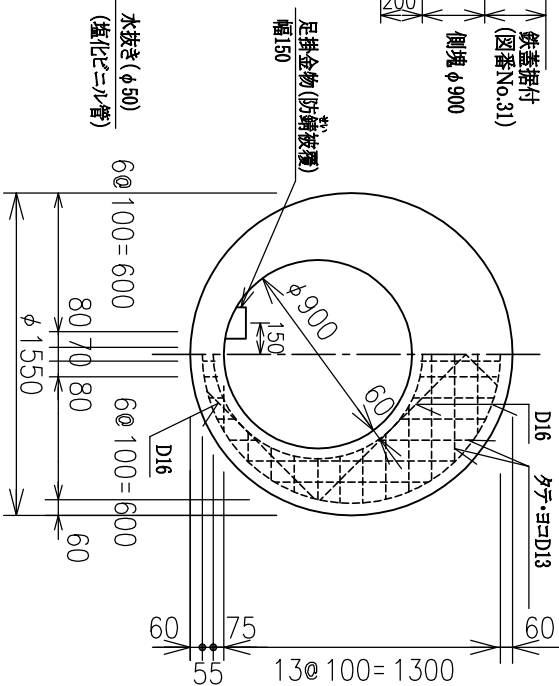


平面図



頂板

単位(mm)



- 1 本図は、呼び径250から900までの配水本管に適用する。ただし、人孔T字管使用の場合も本図に準ずる。
- 2 呼び径と空気弁口径について

呼び径	急速空気弁口径
250~600	75
700~900	100

- 3 側塊は、プレキャストコンクリート製品 (JIS A 5372) の600Hと300Hとを組み合わせて使用する。ただし、側塊(φ1200)の300Hを使用する場合は、最下段に設置する。
- 4 調整ブロックの高さが300mmを超える場合は、頂版の上部に側塊(φ900)の設置を検討する。その際、最下段には300Hを使用し、足掛金物の配置に注意する。
- 5 最上段の足掛金物は、地表から30cm以内の位置に設置する。
- 6 空気弁と頂版との間隔は、300mm以上を確保する。
- 7 水抜きパイプは、地下水位の高い場所には設置してはならない。
- 8 ( )は、呼び径250から350までに適用する。

標準図番号

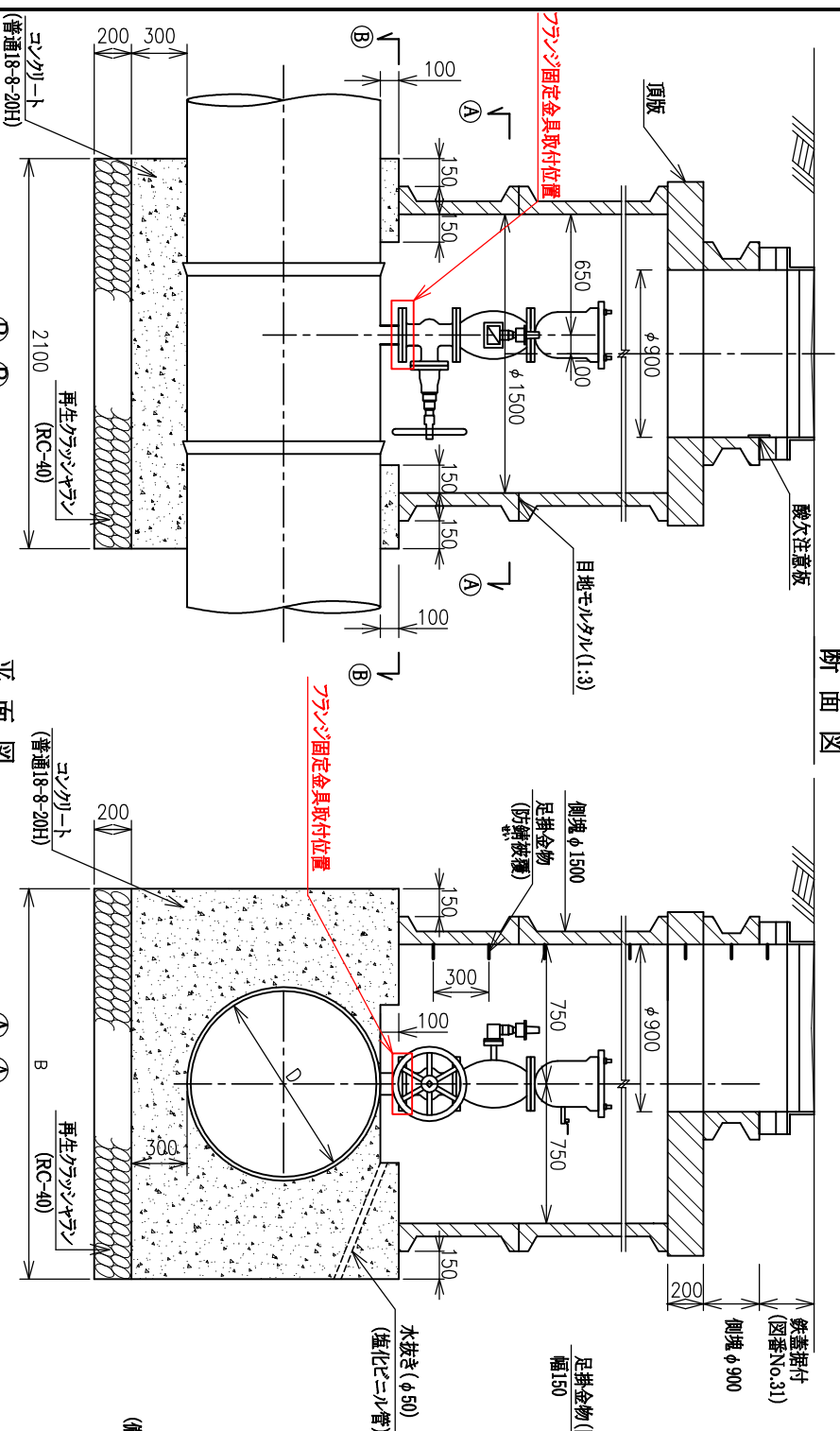
No.22

標準図名称

玉神器対応型急速空気弁室築造工  
(口径75mm・100mm)

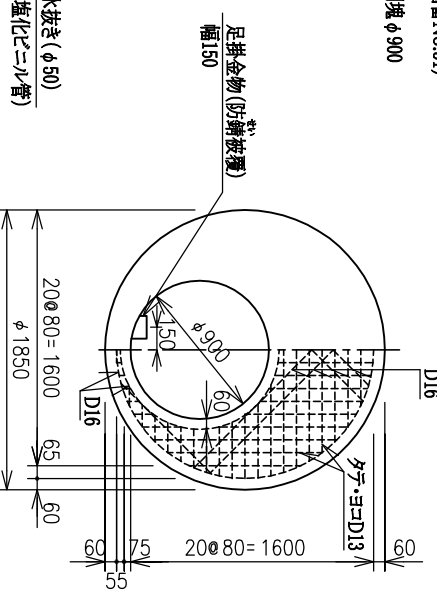
東京都水道局

# 断面図

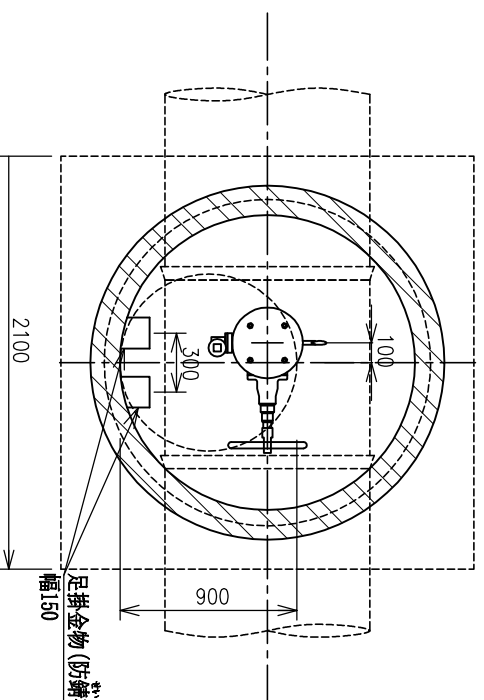
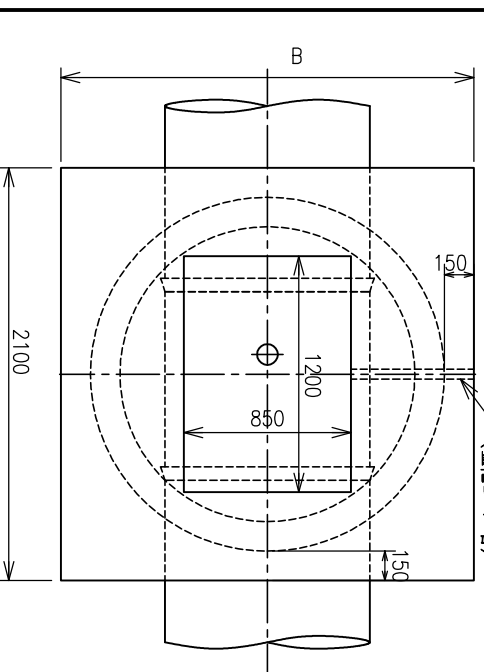


# 頂版

単位(mm)



# 平面図



(備考) 1 本図は、呼び径1000以上に通用する。ただし、人孔T字

管使用の場合も本図に準ずる。

2 呼び径と空気井口径について

呼び径	急速空気井口径
1000～1500	150
1600以上	200

3 基礎コンクリート幅(B)について

呼び径	B
1500以下	2100
1600以上	D+600

4 側塊は、プレキャストコンクリート製品 (JIS A 5372) の600H

と300Hとを組合せて使用する。ただし、側塊(φ1500)の300H

を使用する場合は、最下段に設置する。

5 調整ノロツクの高さが300mmを超える場合は、頂版の

上部に側塊(φ900)の設置を検討する。その際、最下段

には、300Hを使用し、足掛金物の配置に注意する。

6 最上段の足掛金物は、地表から30cm以内の位置に設置

する。

7 空気井と頂版との離隔は、300mm以上を確保する。

8 空気井口径150mm以上はフランジ仕切井(ベドル式)と

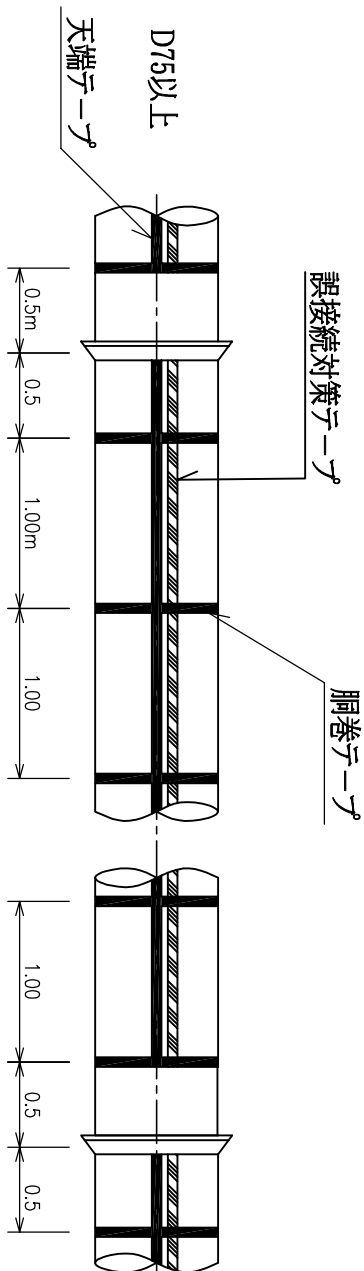
する。

標準図番号	No.23
-------	-------

標準図名称	玉梱器対応型急速空気弁室築造工 (口径150mm・200mm)
-------	------------------------------------

東京都水道局

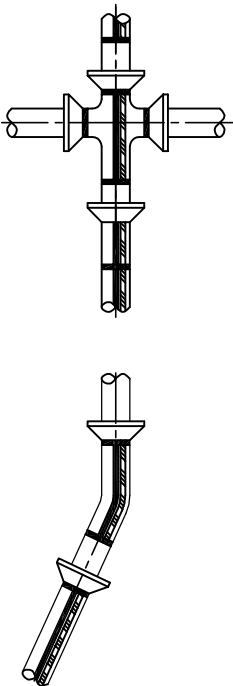
誤 接 続 対 策 テ ー プ ( 管 上 部 )  
※φ400未満となる配水本管に適用する。



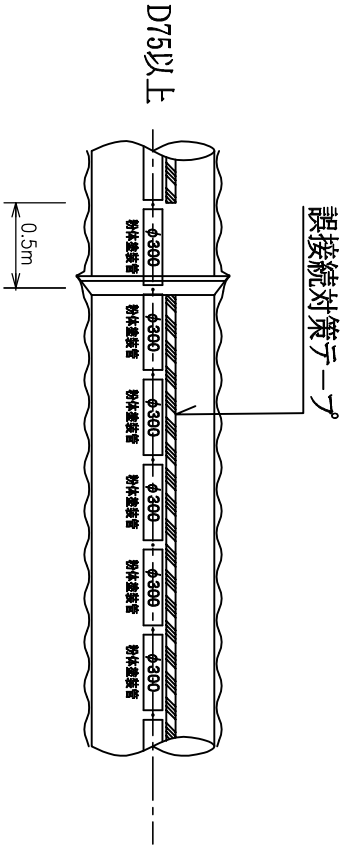
テ ー プ 使 用 量 (単位:m)			
呼び径 (D)	管1本 延 <sub>Ⅲ</sub>	管1本 使用延長 <sub>Ⅲ</sub>	管100m 使用延長
75	4.0	3.5	87.50
100	4.0	3.5	87.50
150	5.0	4.5	90.00
200	5.0	4.5	90.00
250	5.0	4.5	90.00
300	6.0	5.5	91.67
350	6.0	5.5	91.67

明示テープ1巻:20m

異形管の例  
(コンクリート防護される  
ものは除く。)



誤 接 続 対 策 テ ー プ ( ポ リ エ チ レ ン ス リ ー プ 上 部 )

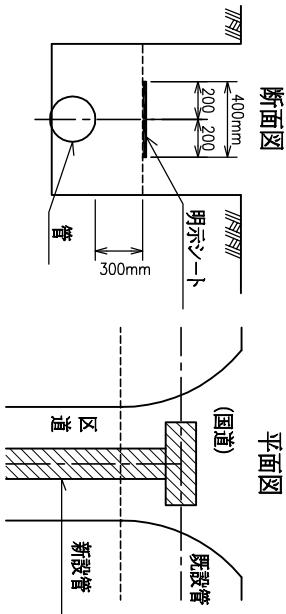


テ ー プ 使 用 量 (単位:m)

呼び径 (D)	管1本 延 <sub>Ⅲ</sub>	管1本 使用延長 <sub>Ⅲ</sub>	管100m 使用延長
75	4.0	3.5	87.50
100	4.0	3.5	87.50
150	5.0	4.5	90.00
200	5.0	4.5	90.00
250	5.0	4.5	90.00
300	6.0	5.5	91.67
350	6.0	5.5	91.67

明示テープ1巻:20m

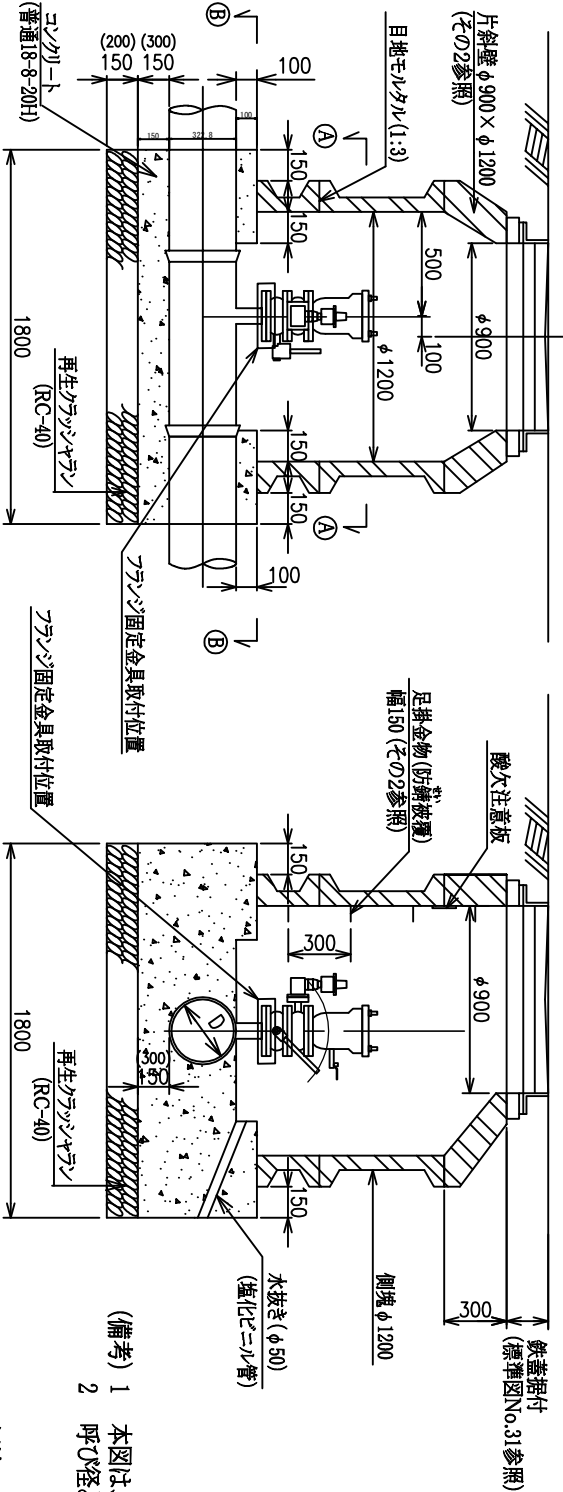
管明示シート (原則として全線に設置)



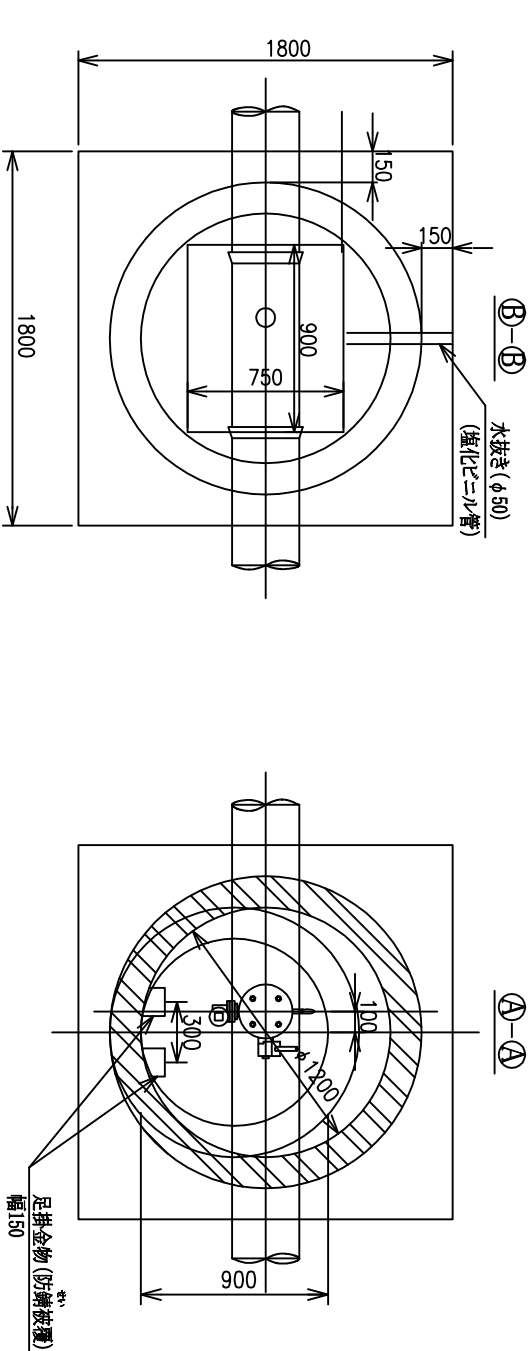
※ 誤接続対策テープ及び管明示シートは支給材とする。

標準図番号	No.38-2
標準図名称	管明示工(誤接続対策用)
東京 都 水 道 局	

断面図



平面図



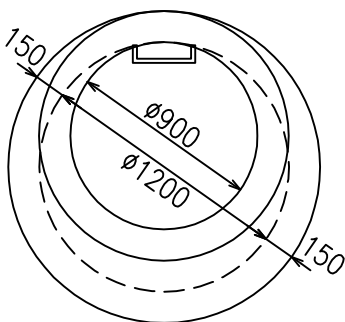
- (備考) 1 本図は、呼び径250から600までの配水本管に適用する。  
2 呼び径と空気弁口径について

呼び径	急速空気弁口径
250~600	75

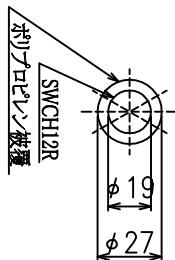
- 3 側塊は、プレキャストコンクリート製品 (JIS A 5372) の600Hと300Hとを組み合わせて使用する。ただし、側塊(φ1200)の300Hを使用する場合は、最下段に設置する。  
4 調整ブロックの高さが300mmを超える場合は、斜壁の上部に側塊(φ900)の設置を検討する。その際、最下段には300Hを使用し、足掛金物の配置に注意する。  
5 最上段の足掛金物は、地表から30cm以内の位置に設置する。  
6 水抜きパイプは、地下水位の高い場所には設置してはならない。  
7 本図は、土被りが1.5m程度の場合に適用できるものとするが、土被りが深くなる等の場合は、原則として標準図No.22の空気弁室とする。  
8 ( )は、呼び径400から600までに適用する。

標準図番号	No.40
標準図名称	玉柵器対応型急速空気弁室築造工 斜壁構造タイプ(口径75mm)その1

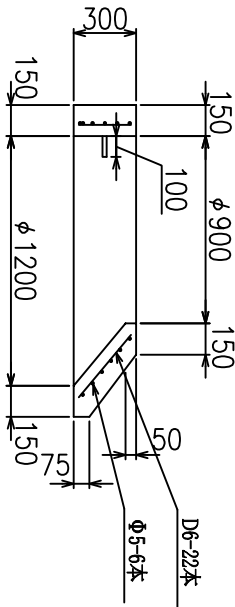
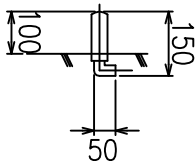
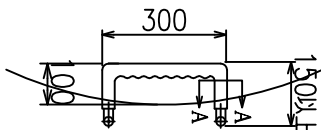
側塊(片斜壁)



A-A断面



足掛金物W300



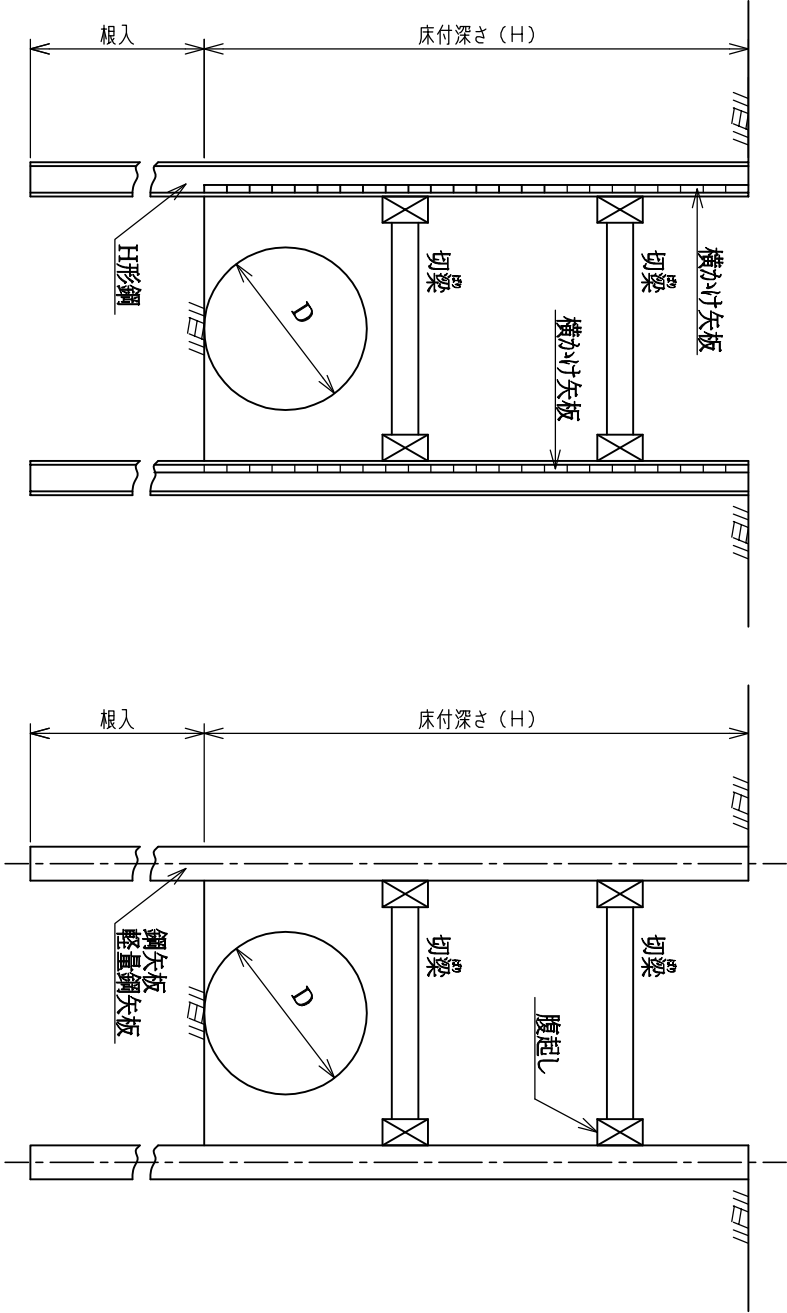
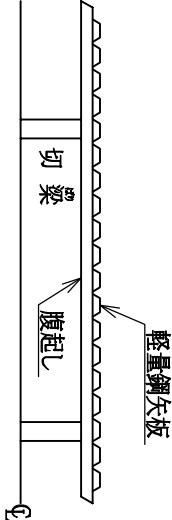
標準図番号	No.40-2
標準図名称	玉柵器対応型急速空気弁室築造工 斜壁構造タイプ(口径75mm)その2
東京都水道局	

軽量鋼矢板(建込)土留

親杭横矢板土留

鋼矢板(軽量鋼矢板)土留

(平面図)



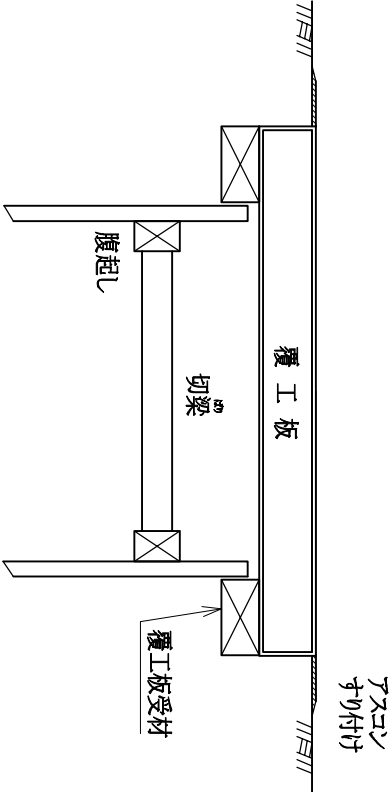
矢板の標準パターン

床付深さ	形式	矢板間隔(a)
1.5m以上～2.5m以下	軽量鋼矢板	全面

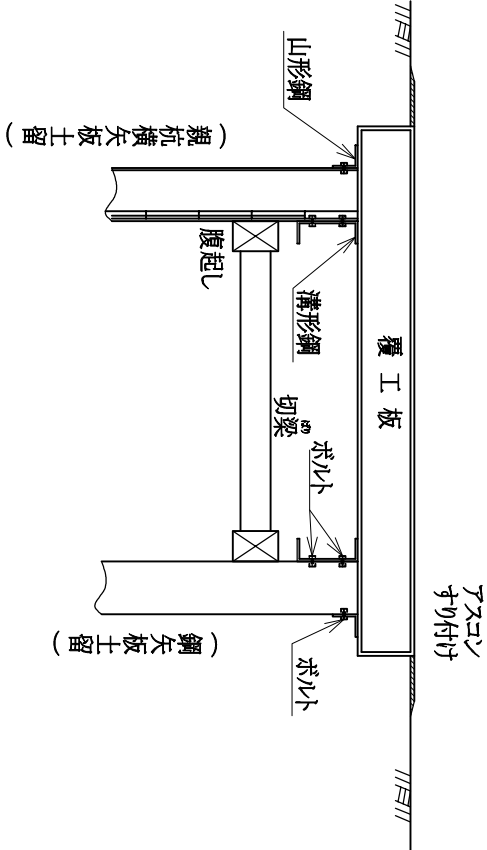
\*1.5m未満の場合、地下水等の条件により土留めの設置を検討する。

参考図番号	No.3
参考図名称	土留工
東京都水道局	

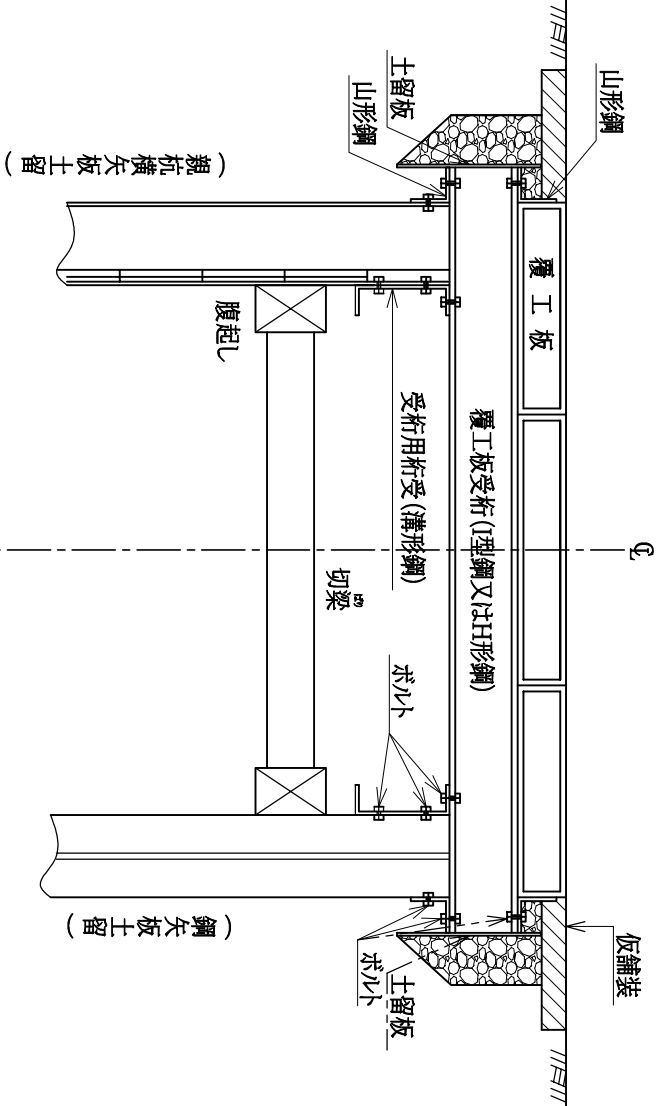
簡易土留の場合



受桁を使用しない場合



受桁を使用する場合

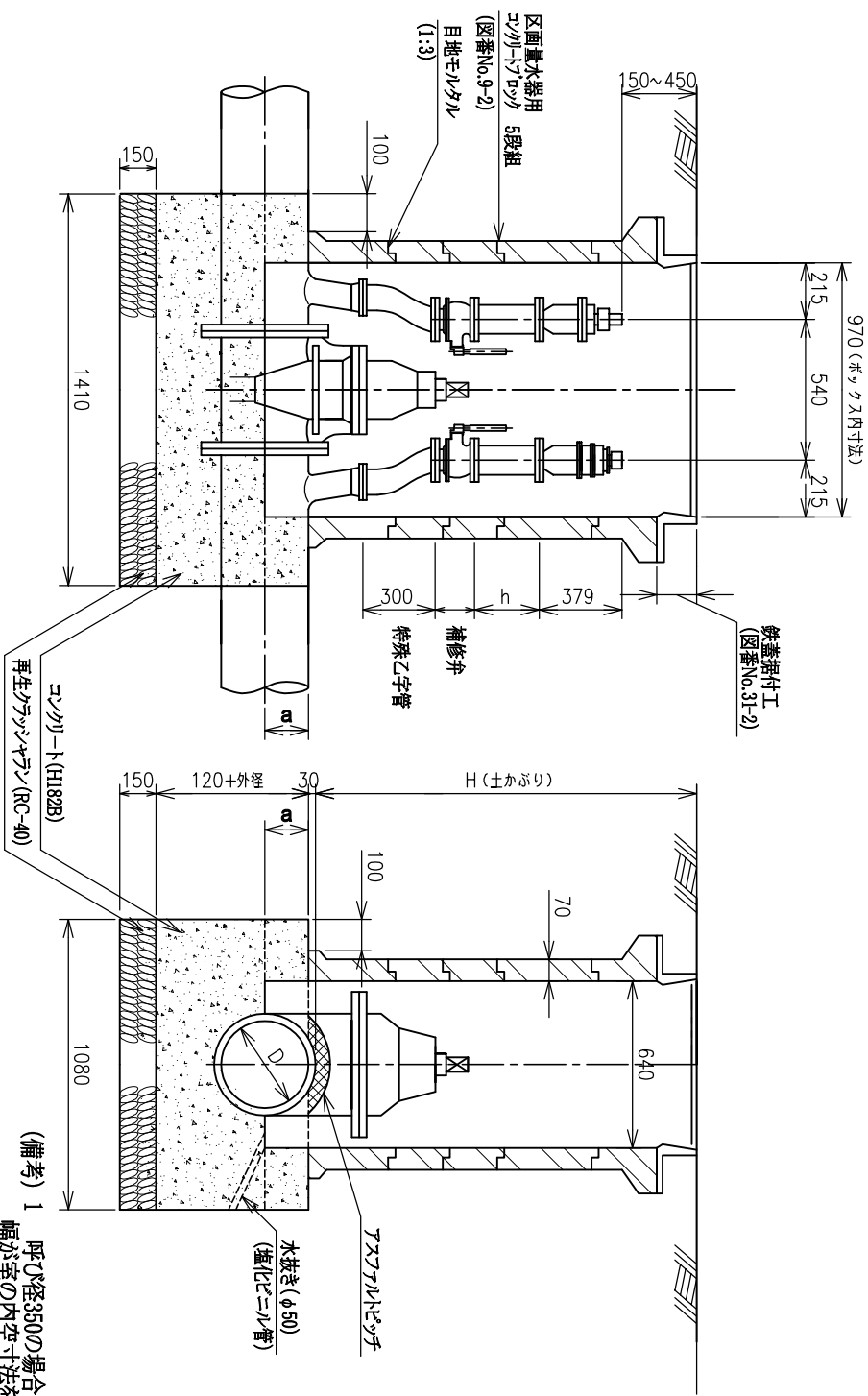


- (備考) 1 覆工板は、原則として鋼製及び滑り止め加工付きのものを使用する。  
2 覆工板のすれ止めに鋼材(薄形鋼等)を使用する場合も、原則として滑り止め加工を施す。

参考図番号	No.4
参考図名称	覆工
東京都水道局	



単位(mm)



材 料 表

名称	D	単位	350
再生クワジヤラン(RC-40)		m <sup>3</sup>	0.228
コンクリート(H182B)		m <sup>3</sup>	0.555
型 枠		m <sup>2</sup>	2.652
マスアールピッチ		m <sup>3</sup>	0.006
目地モルタル(早強)		m <sup>3</sup>	0.028

- 呼び径350の場合のワットシール弁には、バルブメーカーによりフランジ幅が室の内空寸法を超えるものがあるので、監督員に確認した上据え付ける。
- 基礎コンクリートは、管中心まで打設した後、一定の養生時間を取る。
  - a 部分の施工後、直ちに上部コンクリートブロックを積上げる必要がある場合は、a 部分に適当なコンクリートブロックを併用するなどして、上部荷重による変形等を防止する。
  - 水抜きは、地下水位の高い場所には設置してはならない。
  - キヤッパ高さが150mmから450mmまでの間になるように補修弁と消火栓との間に短管を挿入して調整する。
  - ワットシール仕切弁を除く弁のシンボル(キヤッパ)には、白色蛍光塗料を塗布する。

※現場練コンクリートの1m<sup>3</sup>当たり材料は、標準仕様書を参照のこと。

参考図番号	No.36
参考図名称	区画量水器設置工 (呼び径 350)
東京 都 水 道 局	